

## 大原社会問題研究所五十年史

## V 戦後

## 新事務所へ移る

一九五三年一月二二日研究所はそれまで事務をとっていた大学新館四階より、新築の五三年館五階に設置された新事務所に移転した。この建物は、主として大学教授研究室および大学院教室用として建てられたものであるが、研究所はその一角に居を占めたわけである。事務所の総床面積は四七・三坪、所長室と共同研究室各一室、事務室および書庫より成っている。所員はここに引越したのち、大久保(柏木)の旧研究所敷地に焼残った土蔵の中から、図書資料類の一部を新しい書庫に移し、研究所内外の利用に供するため整理を開始することとなった。大戦の戦火により数万冊の図書資料類が焼失したにかかわらず、幸に貴重書、社会運動機関誌紙および報告書、ビラ等の原資料類は無事に保存されたのであるが、いま、ようやくその整理作業が緒についたわけである。

しかし、スペースはできたものの、資料整理のための人手は足りず、作業は遅々としてすすまない。加えて、土蔵の地下室に保管されていた社会運動関係のぼう大な原資料類は、湿気と手入れ不十分のため破損が進行し、一刻も早く補修、整理、保存の処置を必要とすることが判明した。

そこで本年度は文部省に対し、資料の整理と保存作業のための補助金を申請したのであるが、三〇万円の交付がみとめられた。さっそく臨時雇をいれて、新事務所で資料整理の仕事が始まった。

新事務所への移転を機に、研究所は業務運営を一層能率的かつ規則的におこなうため、新しい体制を確立した。すなわち、一月二〇日の所内評議員会(久留間、宇佐美、大島、舟橋)で次の各項が決定された。

- (一) 研究所日常業務を執行、管理する機関として所内評議員会を毎週一回、定期的に開く。
- (二) 各評議員の責任出所日を定める。
- (三) 研究会は毎週一回定期的に開催する。
- (四) 業務別に担当委員制を確立する。すなわち、庶務、会計、渉外、年鑑、図書、資料、調査研究の各業務ごとに所内四評議員の担当をきめ、業務執行の責任者とする。  
(本年度の委員は次のとおりである。庶務会計—宇佐美、渉外—大島、図書—大島、資料—舟橋、年鑑編集—宇佐美、研究調査—大島)

このほか、当日の評議員会は研究所三十年史の執筆担当者(大島研究員)を決めた。また法大大学院経済学専攻博士課程修了予定の原薫氏を助手として採用することを内定した。(原研究員は三月より出所)

新事務所への移転後間もなく、二月二五日、五三年館開館式が挙行された。これを機会に研究所は所蔵する貴重書、稀覯本の展示会を開き、大学教職員や学生に公開した。翌二六日には都内各高等学校の校長や教員が参観した。

四月五日には恒例の高野岩三郎先生追憶会が、日比谷・松本楼において開かれた。また九月二四日と一〇月四日の両日、還暦をむかえた久留間所長祝賀会が開催された。九月の会には所員全員が、一〇月の会には大内兵衛、宇野弘蔵、山村喬、笠信太郎、中村哲氏ほか多数が出席した。

なお本年一一月、久留間所長は学校法人法政大学の理事に選任され、その職についた。

五三年度の事業は、ほぼ前年のそれをひきついでおこなわれたが、経済安定本部の委任調査は、「賃金の階層別変動とその原因」をテーマとし、紙パルプ・鉄鋼・石炭・自動車の四産業を対象として実施された。

この年二月より『資料室報』が創刊された。一九五六年までは不定期刊で、内容も資料紹介、資料目録、労働日誌を中心に編集していたが、一九五七年五月の第二三号以降月刊となり、第二九号からは毎号論文を掲載することになり、一九五八年二月一〇日には第三種郵便物の認可も受けた。一九七〇年三月現在で一六〇号を数えている。

また、本年五月から、焼け残った図書の中のプロレタリア文学関係文献の整理が法政大学文学部の小田切秀雄教授、小原元助教授、西田勝氏らによってはじめられ、その結果は、詳細な年代順の目録として『法政大学文学部紀要』第二号(一九五六年六月)に発表された。この調査によって、田岡嶺雲の『数奇伝』、丹潔『民衆のために』、平沢紫魂(計七)『創作・労働問題』など、これまで容易に見ることの出来なかった貴重な小説や評論が発見され、その一部はのちに小田切教授をはじめ、竹内好、平野謙、野間宏、蔵原惟人の各氏によって編集された『日本プロレタリア文学大系』全九巻の底本として使用された。

法政大学大原社会問題研究所五十年史  
発行 1970年11月  
編・発行 [法政大学大原社会問題研究所](#)

---

[前のページ](#) ← [法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】](#) → [次のページ](#)

---

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

---

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)

---